

地域の皆さまへの説明会を開催いたしました

6月4日(火)に刈羽村で、6日(木)に柏崎市で、以下の内容についてご説明させていただきました。



柏崎会場の様子



ご質問への回答をする副社長の相澤



所長の横村

【第一部】 発電所から皆さまへのご説明

◆ 福島原子力事故の総括および原子力安全改革プラン

事故に対する事前の備えが不足した当社組織内の問題を明らかにし、それらを解決するための原子力安全改革プランをご説明しました。(裏面もご覧下さい)

◆ 柏崎刈羽原子力発電所の安全対策の実施状況

安全対策の考え方と進捗状況をご説明しました。

◆ 柏崎刈羽原子力発電所の敷地内の断層調査結果

敷地内の断層の活動性について調査し、近い将来に活動するものではないと評価をしたことをご説明しました。

* 安全対策と断層の調査結果については、今後発行するニュースアトムでさらにご紹介いたします。

【第二部】 質疑応答 (主なものをご紹介します)

【ご質問】

原子力安全改革プランで国民から信用されるようになってきているのか?

【回答】

福島の事故は防ぐべき事故であり、その反省から今回ご紹介した原子力安全改革プランを作りました。柏崎刈羽原子力発電所では最大限の安全対策を行い、今後何とか皆様の信頼を得られるようにしていきたいと思っております。

【ご質問】

今後は、事故が起こる前提で安全対策を進めて欲しい。

【回答】

絶対安全なんだと考えるとそこで思考停止してしまい、更なる安全性の向上が止まってしまいます。これが一番悪い状況です。これからはどんなリスクがあるのか突き詰めて検討し、より安全な発電所となるようにしていきたいと思っております。

【ご質問】

敷地内の断層に関する説明内容は、学会の定説に反しているのではないかと?

【回答】

今回の調査は、事業者として責任を持って実施したものであり、結果を公表することにより様々なご意見をお伺いしていきたいと考えています。

福島原子力事故の総括および原子力安全改革プラン

福島原子力事故に対する反省

【反省1：設備面の不備について】

- ◆設計段階から外的事象を起因とする共通原因故障への配慮が足りず、全電源喪失という過酷な状況を招き、安全設備のほとんど全てが機能喪失しました。
- ◆海外の安全性強化策や運転経験の情報を収集・分析して活用したり、新たな技術的な知見を踏まえたりする等の継続的なリスク低減の努力が足りず、過酷事故への備えが設備面でも人的な面でも不十分でした。

【反省2：事故時の広報活動について】

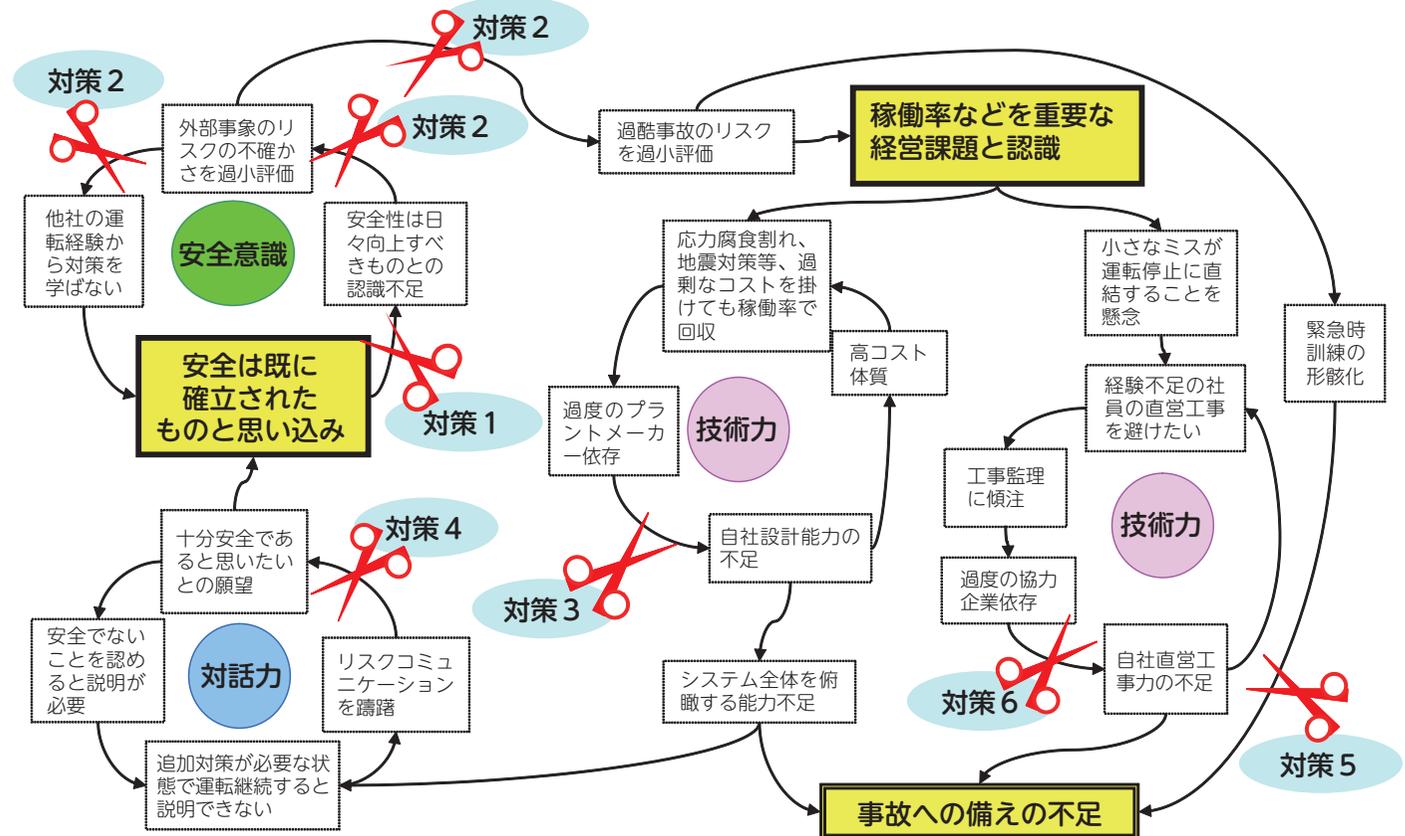
- ◆2011年3月11日の事故発生以降、広報活動全般が、迅速さ・的確さを欠いていました。特に、炉心溶融が生じていることを公表したのは、5月24日と大幅に遅れました。

以上のことから、炉心溶融、更には広域に大量の放射性物質を放出させるという深刻な事故を引き起こし立地地域のみなさま、全国・全世界の方々の不安や不信を招いてしまったことを深く反省します。

原子力安全改革プラン

- ◆福島原子力事故を防げなかった背後要因は、事故の備えが不足した負の連鎖（右図）が強固に組織内に定着していたものであり、これを解消するために複数箇所を同時に断ち切る下記の6つの対策を実施します。

- 【対策1】 経営層の安全意識向上
- 【対策2】 経営層への監視・支援強化
- 【対策3】 深層防護提案力の強化
- 【対策4】 リスクコミュニケーション活動の充実
- 【対策5】 発電所および本店の緊急時組織の改編
- 【対策6】 平常時の発電所組織の見直しと直営技術力強化



今後は、原子力発電所の安全性向上対策の強化や当社組織の改革に、不退転の決意で取り組んで参ります。